

「身体的拘束の最小化」に関する取り組みについて

当院の身体的拘束に関する方針

身体的拘束は、せん妄（一時的な混乱・意識障害）や認知症症状の悪化、関節の拘縮や筋力低下など、患者さんの心身に悪影響を及ぼす可能性があります。仮に身体拘束を行った場合でも転倒やベッドからの転落、点滴やチューブの抜去など完全に防ぐことはできません。そのため、身体的拘束を行うことによる不利益は、行わないことによるリスクを上回ると考え、当院では緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束を行わない方針としています。

身体的拘束最小化に向けた取り組み

- 多職種による専門チームが、定期的に病棟をラウンドし、身体的拘束を実施しない具体的な方法について組織全体で検討・実践しています。
- 「見守り支援システム」や「ベッド内蔵型荷重センサー」等を活用しています。センサーからの情報をもとに、患者さんの行動を妨げず、必要なケアを適切なタイミングで提供することで、身体的拘束を行わない環境作りに努めています。